

こんにちは。入局 4 年目、佐久医療センター放射線治療科の熊澤琢也です。

週末の過ごし方や趣味がテーマの本企画の投稿依頼を受けまして、音楽関係にしようか自動車関係にしようか迷いましたが、今日は釣りについて語りたいと思います！

皆さん、釣りに対してどのようなイメージがあるでしょうか？ あんまり釣れない、待っているだけで退屈そう、道具がややこしくて難しそう、汚い、臭い、おじさんっぽい…そんなネガティブなイメージがあるかもしれませんが、ちょっと待ってください。“釣り”と一口に言っても、場所×魚種×方法で無限のスタイルがあって、今まで 25 年以上様々な釣りをしてきましたが、ライトなものからディープなものまで本当に幅広いなと感じています。それでは、今日は特に最近ハマっている少々ディープな釣りの世界を一部紹介したいと思います。ちょっとでも釣りに興味を持って頂けたら嬉しいです。お時間のある方、是非お付き合いくださいませ。

深海編

最近、神奈川や茨城から船に乗って水深 120-300m 程度のポイントで深海魚を狙っています(定義上深海は水深 200m 以上のことを言いますが…)。狙いはアカムツ(のどぐろ)、アラ、キンメダイ、メダイ、スミヤキ等々で、どれも脂が最高に乗った超高級魚たちです！ なかなか空気を吸う機会がない深海魚たちは、浮袋に頼るというよりは身体に脂をためて比重を海水に近づけられるように進化しているわけですね。

そんなターゲットを狙うのに、ジグというルアーを使う「ジギング」という方法をとっています。この釣りでは 400g ぐらいまでの非常に重いジグを深い海で動かし続け、魚がかかったらひたすら長い距離を巻き取る必要があります。ご想像の通り超ハードな筋トレです。

とっても美味しいお魚が手に入り、釣り味も最高で、しかも釣り筋が鍛えられる一石三鳥のステキな釣りです！(筋肉が必要な理由は後述)



先日の 7/18 に茨城沖で釣ったアカムツです。皮目を炙った刺身、最高でした。



同日に釣れた超高級魚アラ。さっぱりと軽く脂がのりつつも旨味が凝縮された、まさに超高級な味のする刺身でした(奥がアラ、手前は一緒に釣れたカサゴです)。

八丈島編

八丈島は黒潮を超えた海域にあり、生息する魚の大きさも数も本州とは別次元で、なんと岸から巨大なマグロ、カンパチ、ヒラマサまで狙えてしまう夢のようなフィールドです。8年前からほぼ毎年通っていて、ここで釣りをすることはもはやライフワークとなっています。知り合いもちらほらできました（笑）

今まで色々な釣り方をしてきましたが、最近は深海編でもお話した「ジギング」をメインにやっています。エサを泳がせて電動リールを使って釣る方法もあるのですが、より戦略性が高く、強烈な引きを見せる魚とのまさに格闘ができるこの釣り方が、今は最高にエキサイティングです。今年のターゲットはよりサイズアップしたカンパチやキハダマグロ、そして未だ手にしていないヒラマサです！



平成最後の夏、岸より釣りあげた磯のダンブカーの異名を持つハマフエフキ
記録級のサイズだったのでリビングに魚拓となって飾られています



2019年夏、餌釣りで取ったカンパチ 最大のものは90cmオーバー
食べきれなかったため、医局の冷蔵庫に入れて皆さんに持って帰っていただきました



2020年夏、ジギングでキハダマグロとカンパチ！ その他アカハタ、カッポレなど大漁！

世界編

群大放射線科に入ってよかったことのひとつが、海外に行くハードルが低いことです！今はコロナ禍でなかなか行き辛くなってしまいましたが、入局1年目はインドネシア バリ島(FARO:Federation of Asian Organizations for Radiation Oncology)、2年目はアメリカ テキサス州(インターンとしてテキサス大学南西校とMD アンダーソンがんセンター)に行くことが出来ました。

バリ島では阿部孝憲先生、宮坂勇平先生とともにクルーザーをチャーターし、カジキに並ぶ世界中の釣り人憧れの魚であるロウニンアジ(GT : Giant Trevally)に出会うことが出来ました！ただ、この魚は我々が掛けたわけではなくて、マッチョな現地スタッフが掛けた後、私はその後ファイトをただけでするので個人的にはノーカウントです。荒波の中、巨大なルアーを動かし続けるには、我々の体幹と腕の筋力は全く足りていませんでした。リベンジをしなくては…次のFARO in 南国に参加できるときは、身体をバキバキに仕上げていこうと思います。



テキサスでは、MD アンダーソンから歩いて行ける範囲の野池で、小さいながらも本場のブラックバスを釣ることが出来ました。ここでは外来魚ではありません(笑)遺伝素因の違いのせいかちょっと白くて精悍な感じで、日本でみるブラックバスとは違う雰囲気でした。



エリアフィッシング編

海なし県の群馬でも釣りは出来ます！群馬にはニジマスやイwanaなどの美味しい魚たちを放っている釣り堀がたくさんあって、その数は日本でトップクラスです。「え？釣り堀なんて簡単でしょ？」とか思いませんか？確かにエサで釣れば子供でも初めての方でも手軽に魚の引きを楽しめるのですが、ルアーで釣れば非常に奥の深いものになります。主に0.5g-3g程度(深海のジグの100分の1以下の重さ！)のスプーンと呼ばれる非常にシンプルなルアーを使うのですが、その日その時間の環境(気温、水温、明るさ、水の色、空の色、風の強さ、鳥の鳴き声、込み具合、前日の釣り人の様子…)から、最適な重さ、形、色のルアーを見極め、最適な深さや動かし方やスピードを嵌めていけるかどうかで、隣の人と全く釣果が変わってくる非常に繊細でシビアな釣りです。トライ&エラーで正解を導き出していくこの釣りは、まさに理系の釣りです。ちょっと興味湧いてきませんか？ベテランから若い方まで参加する大会もしばしば開かれ、群馬は日本随一のレベルです。宮坂先生と参加したこともあります！



エリアフィッシングのルアーはこんな感じでとても綺麗です！ これでもまだごくごく一部です（汗）

同じルアーでも重さ、色の違いで全然釣れ方が変わってきます

右の写真はイワナ×ニジマスの交配種であるロックトラウトです、美味

ちょっとマニアックな内容が多くなってしまいましたが、実は数年前より非公式団体 **F. A. R. O. (Fishing Association for Radiation Oncologists)** という組織を立ち上げ、放射線治療業界の豊かな釣りライフを目指して活動しています。ワカサギ釣りやサビキ釣りなど親しみやすい釣りも、慣れていない方も含め一緒に度々行っています（中野隆史先生(群馬大学放射線科前教授)も一緒顶けました！）。現在日本では、釣りはコロナ禍でも感染のリスクが低い趣味として、空前のブームが起こっています。新たな趣味として始めてみませんか？ ちょっと釣りの世界を覗いてみたい方、久々に釣りをしてみたい方、他の釣りにも手を広げてみたい方、ご自身の釣りライフを共有されたいベテランの方、釣りはどうでもいいけど極上の魚が食べたい方、何でもお気軽にご連絡くださいませ。

ここまで読んでいただいた方、長々とお付き合い有難うございました。

Have a good fishing!